

子供の歯は母親の責任

— 妊娠と歯 —

湯 淺 泰 仁

婦人が妊娠するに唾液の性質が變る、口の中が不潔になり易く、随つて臭くなる。又齒齦が赤くなつて腫れ、出血し、時には潰瘍になつたり腫瘍になつたりする。尙ほ齒が浮いて良く噛めなくなつたり、自分で何も思ひないと思つてゐる齒が痛んだりする。一度に澤山齶蝕になつて湯や水が滲みだし齒刷牙が痛くて使へなくなる。且又今迄有つた齶蝕が急に悪くなつてボロ／＼に壞れたり、齒齦に膿がたまつたりする。是等の變化は御産が濟んで丈夫になれば治るが其儘捨て置いては酷い結果に成るから是非共齒科醫の手當を受けなくてはならない。

妊娠するに何故齒齦が腫れたり齶蝕になつたりするか？學者の研究に依れば妊娠するに色々の「ホルモン」の出力が普通と違つて來るので前記の諸症狀を呈し随つて口腔内が不潔になつて、細菌が盛んに殖えて齶蝕となる。一方には石灰鹽、磷酸鹽、「ビタミン」が不足するので一層抵抗力が

弱くなるを考へられてゐる。

一般に婦人は二十一歳から四十歳の間に齶蝕が増すに云ふのは此の期間に多く妊娠する爲である。随つて度々妊娠した婦人には酷い齶蝕が多いものである。

母體と胎兒との關係は齒に大いに影響あるもので不完全なる母體より生れる子供は多く不完全なる齒を生るものである。胎兒の齒は二ヶ月頃より發生が始つて四ヶ月頃には石灰化が開始されるものである。故に乳齒を健全にせんすれば既に妊娠時に於て注意を要するものである。即ち榮養攝取が肝要で前記の要素を充分含むだ食物を必要とする。

又妊娠四、五ヶ月頃には「ツハリ」を稱して食慾が減退し、偏食に成り勝ちにて榮養がされない人が少くない。斯る場合こそ胎兒の齒に影響を及ぼすものなれば注意が肝要である。



齒の衛生(女子體育展の一部)

つまり妊婦は御産が済む迄は自分の爲にも又胎兒の爲にも、先づ口の中を清潔になし、榮養をさるこゝに氣を付けてはならない。

注意事項を擧げれば次の如し。

- 一、悪い齒は妊娠しない内か或は妊娠の初めの中に完全に治して置くこと。
- 一、度々「合嗽」をすること。
- 一、叮嚀に齒を磨くこと。
- 一、色々の食物を取り合せ殊に野菜、海藻、果物、等を澤山食へること。
- 一、戸外に出て太陽に當ること。

表紙の繪

瓜食めば 子等思ほゆ 栗食めば 況してしぬば
 ゆ 何處より 來りしものぞ 眼交に もきな懸
 りて 安寢し爲さぬ

とは山上憶良の子を思ふ切なる心、

銀も金も玉も何せむにまされる寶子に如かめやも
 と共に子供の事にたづさはるものうれしい歌の一つである。
 (及川)